

令和6年度 浜松市立舞阪中学校 学校評価報告書

1 学校教育目標

よく考え 正しく判断し 実行する生徒

2 学校経営目標と重点項目

たくましく生きる「自立」、よりよく生きる「共生」を目指した教育の充実

(1) 自分や舞阪への誇り (2) 確かな学力 (3) 元気な学校 (4) いのちの教育

3 重点目標達成のための取組 ※赤字はR5から変更した部分

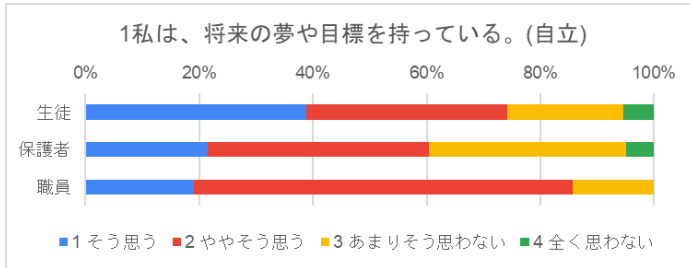
(1) 自分や舞阪への誇り	(2) 確かな学力	(3) 元気な学校	(4) いのちの教育
1. 生き方教育 - 夢や目標を持ち、自分らしさを探求する学びの場の設定 - 職業、進路講座、未来授業の実施 - キャリアパスポートの活用 2. 個に応じた支援 - 生徒理解とニーズの把握 - 活躍の場の設定と認め励ます指導(自己肯定感、自己有用感の醸成) 3. 「舞阪に学ぶ」 - 地域の特性や地域人材を生かしたキャリア講座、授業の実施 - 地域の行事への積極的参加	1. 分かる楽しい授業 - 目標の明確化 - 主体的・対話的で深い学びの実現 - 課題発見、課題解決学習の充実 - 生徒の活躍の場の設定 2. 学力状況の把握と対応 - 学力調査の分析と課題克服に向けた指導の工夫 - 個に応じた補充学習の実施 - 家庭学習の定着 3. 教員の授業力向上 - 教員相互の授業公開 - ICT機器の効果的活用による授業の充実	1. 感動ある学校行事 - 体育祭、潮鳴祭の充実 - 生徒の主体性、協働性、創造性が育つ学校行事 2. 生徒会活動の充実 - 生徒の自発的、自治的な活動の活性化 - 社会生活に活きるあいさつや活動 - 生徒会活動を通じた人間関係づくり 3. 自分を鍛え、個性を磨く活動の奨励 - 部活動等を通じた人間力の育成 - ボランティア活動等への積極的な参加 - 得意を伸ばす指導	1. 命を守る教育 - 防災教育、訓練 - 舞中防災の日 - 性教育・命の講話 - 交通安全指導 2. 命の大切さを実感する教育 - いのちの月間(6月) - 生徒主体の「いのちを考える集会」 - いじめ茶だめマン - シトラスリボン運動 - 福島ひまわり里親プロジェクト 3. 健やかな心身の育成 - 互いのよさを認める活動の推進 - 道徳教育の充実 - 食育の推進 - 生活習慣の確立 - 相談体制の充実
小中一貫教育・キャリア教育の推進 9年間の学びをつなぐ学習指導と生徒指導 - 年間2回の小中合同研修会の実施 - キャリアパスポートを活用した9年間の学習計画と実施 - 地域人材を講師とした「キャリア講座」「授業」の設定			
地域・保護者との連携 〇地域行事への積極的な参加推奨 〇CSを軸とした地域との協働・連携 〇地域・保護者対象の学校公開の実施 〇学校だよりとブログでの教育活動公開 〇授業ボランティア		元気な学校・教職員 〇明るいあいさつ、前向きで信頼される教職員 〇自立し協調性ある専門性の高い教職員 〇高め合い支え合う「チーム舞阪」 〇ワークライフバランスを意識した教職員の働き方の推進	

4 自己評価結果及び考察 ※アンケートの文面は、生徒を対象としたもののみ掲載。

(1) 自分や舞阪への誇り

【自己評価アンケートの結果と考察】

1-R6



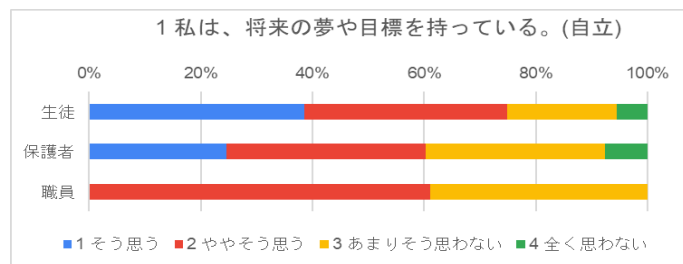
・生徒は、昨年度とほぼ同じ。

○保護者の「全く思わない」の割合が減った。

○職員は、R4、R5 に比べ、「そう思う」「ややそう思う」と肯定的な回答が増え、8 割を超えた。

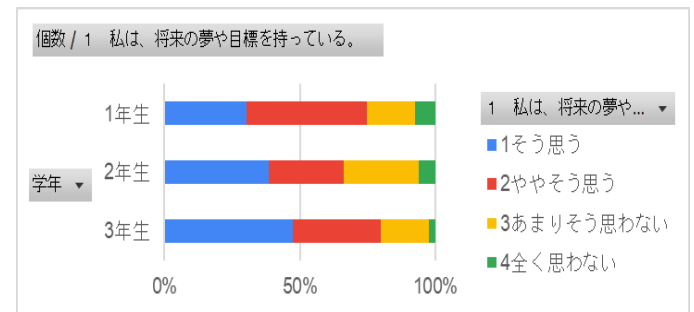
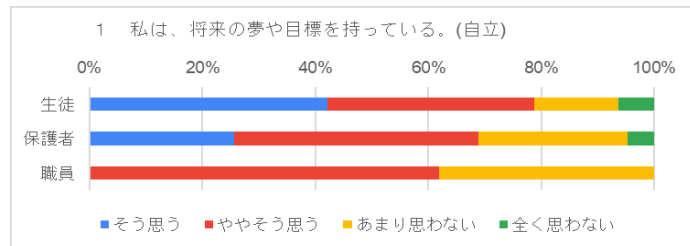
→「生き方」にかかわるさまざまな教育活動に手応えを感じている職員が増えたことは、指導者側の自己肯定感や有用感が高まり、指導内容や指導方法へ自信や指導力の向上にもつながると考えられる。

1-R5



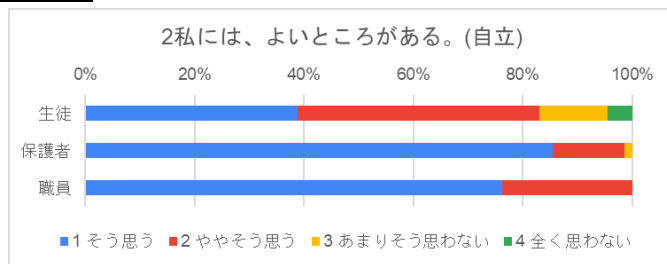
なお、各学年の生徒の状況は以下の通りである。

1-R4



割合的には、昨年とほぼ同じであった。

2-R6



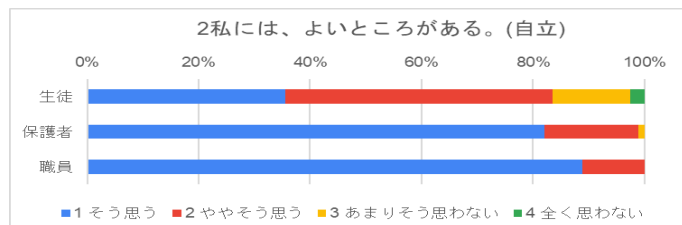
・ここ3年間で大きな変化はない。

○生徒、保護者で「そう思う」の割合は、多少増えている。

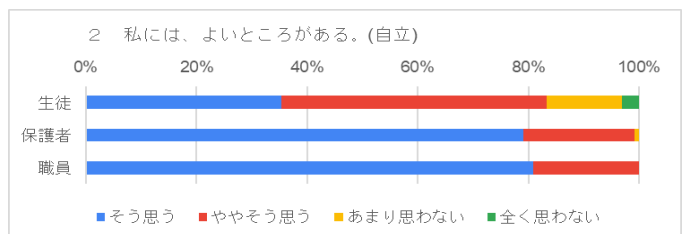
△職員が「そう思う」割合は、8割前後であるが、多少の変動が見られる。

職員は、毎年、入れ替わることもあり、それぞれの見方によって変わると思われる。

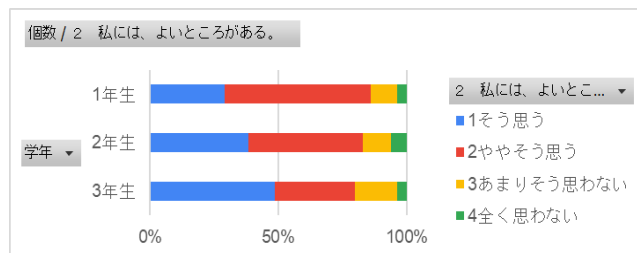
2-R5



2-R4

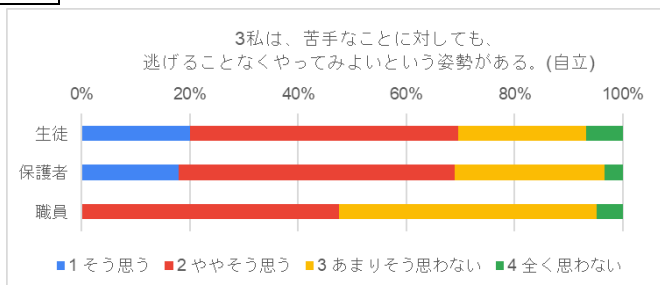


各学年の状況は、以下の通りである。



例年、学年があがるにつれ、「そう思う」の割合が高くなる傾向にある。様々な教育活動を経て、自分自身の長所や強み、得意など、自己理解が進み、自己肯定感や自己有用感が高まっていると考えられる。

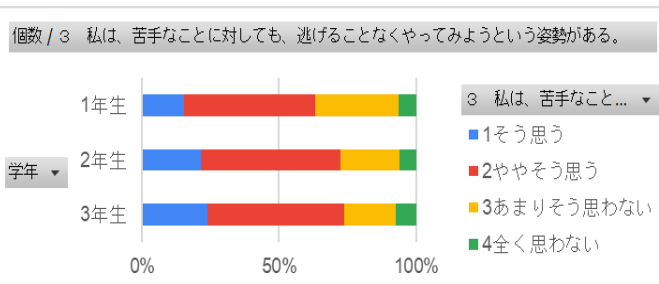
3-R6



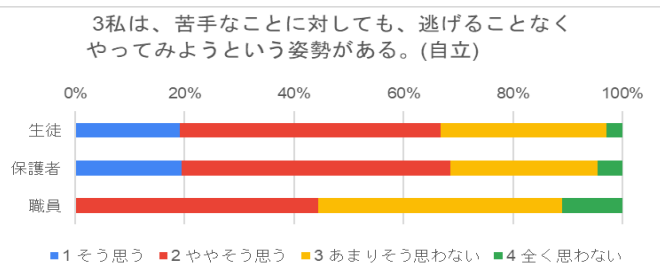
・昨年度とほぼ同じ傾向である。

△ただ、生徒の「全く思わない」が増加し、保護者の「そう思う」が減少していることが、気になる。

各学年の状況は、以下の通りである。



3-R5

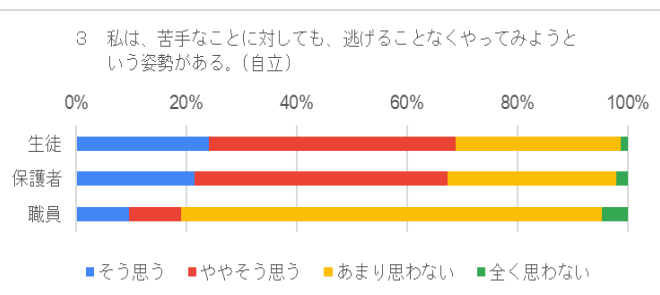


・2年生は、1年生の時とほぼ同じ傾向。

○3年生は、2年生の時より肯定的な回答の割合が増加していた。

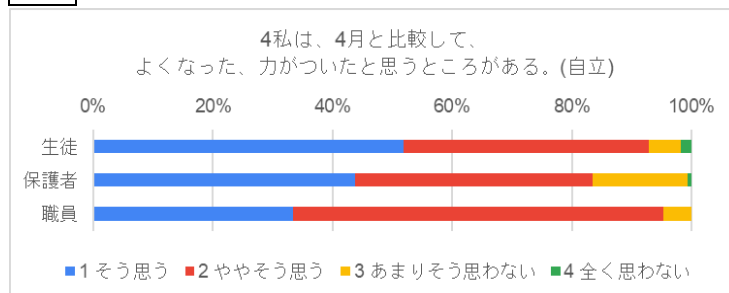
△1年生は、ここ2年間の1年生に比べ、「そう思う」の割合が低い。

3-R4



→昨年度から校内研修で重点を置いている課題対応能力の育成については、今後も継続し、3年間を通して身につけさせられるよう、教育活動全体で取り組む必要があると思われる。

4-R6

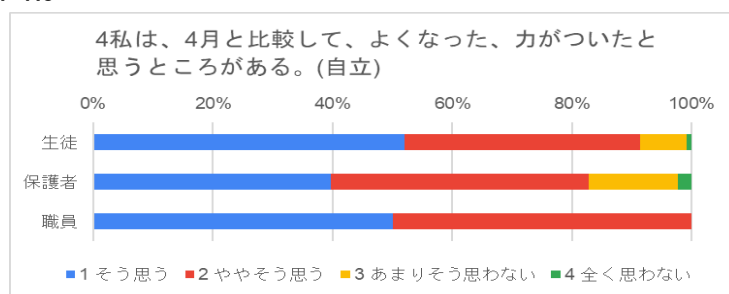


・生徒の傾向は、毎年、ほぼ同じである。

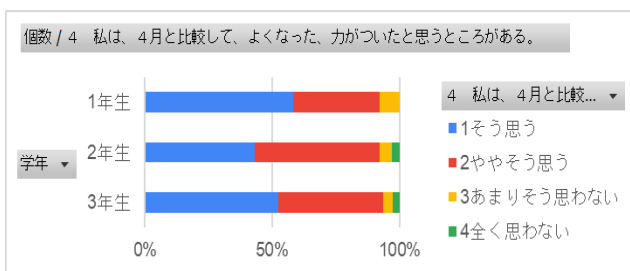
○保護者の「そう思う」の割合は、ここ3年間で1番高い割合であった。

△職員は、ここ3年間、肯定的な回答の割合は、生徒と保護者に比べ高いが、「そう思う」と回答する割合は、その年によって全く違う結果となった。

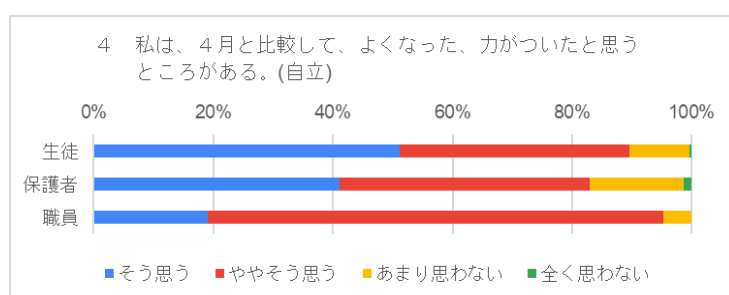
4-R5



→舞阪中生徒の傾向は、学年の生徒個々が入れ替わったとしても、ほぼ同じ結果になると考えられる。9割が肯定的である。各学年の状況は以下のとおりである。



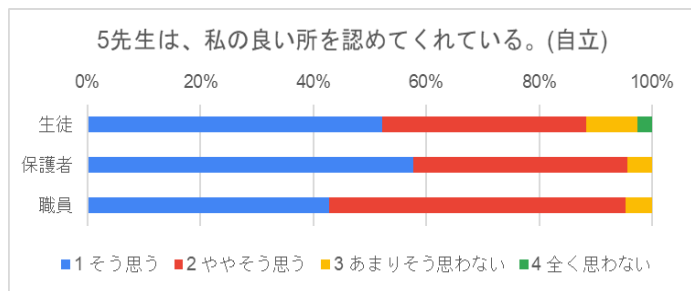
4-R4



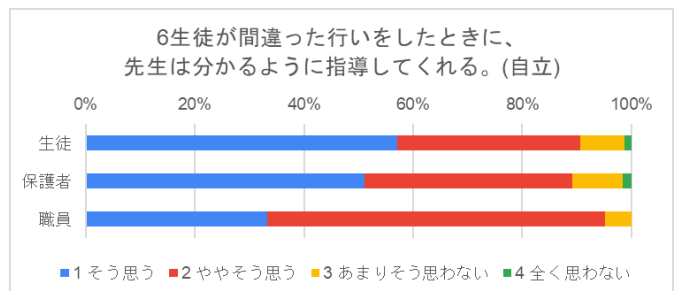
○1年生の「そう思う」の割合が高い。中1ギャップを心配する声が多い中、多くの生徒が自己の成長を自覚できており、小学校から中学校へ、スムーズな移行ができていると思われる。

→ただ、集団生活や中学校の学習に対して、不適応を起こしている生徒もいるため、個に応じた支援は、今後も継続していく必要があると思われる。

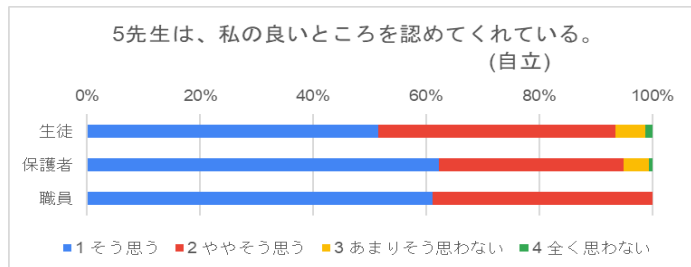
5-R6



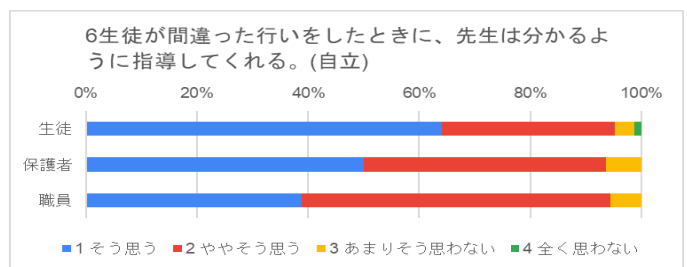
6-R6



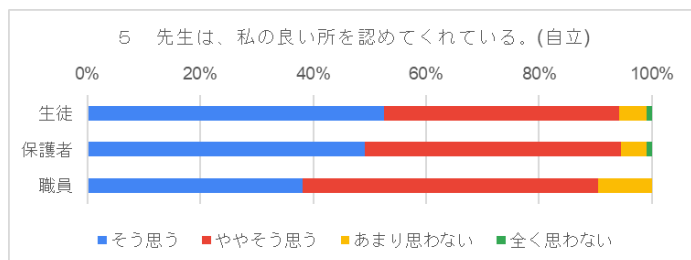
5-R5



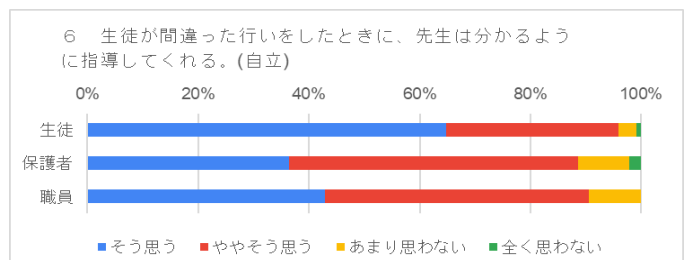
6-R5



5-R4



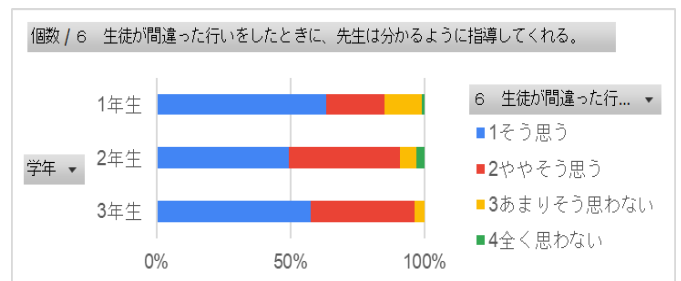
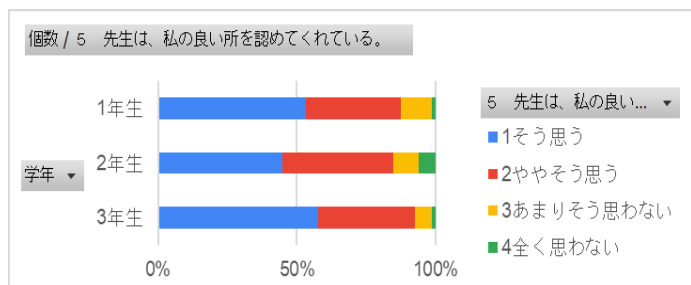
6-R4



・生徒、保護者、職員ともに、肯定的な回答が9割程度と高い。
△しかし、昨年に比べ、職員の「そう思う」の割合が減ったり、生徒や保護者の否定的な回答の割合が増加している。

→職員1人ひとりが、今まで以上に自覚をして指導にあたり、「そう思う」とはっきり肯定的な回答ができる割合を増やす必要がある。

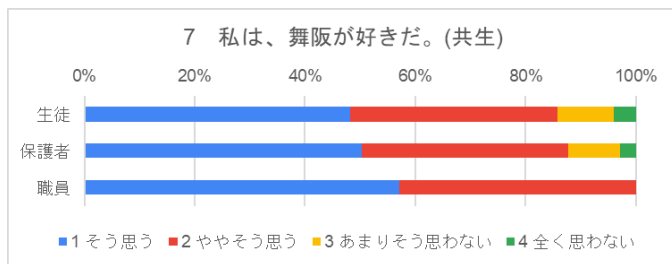
各学年の状況は、以下の通りである。



・質問5に関しては、3年生の「そう思う」の割合が高いが、昨年2年次は5割に満たなかった。
・質問6に関して、2年生と3年生の傾向は、同じ学年の昨年度の傾向とほぼ同じであった。

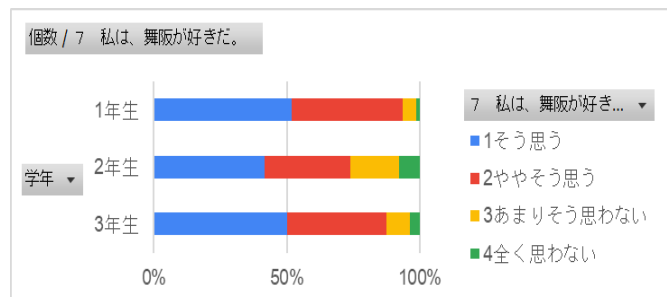
→職員が良い所を生徒に伝えたり、分かる指導をしたりすることは今後も継続していくが、生徒自身の成長に伴う自己の心の安定や、自己肯定感・自己有用感の高まりも、回答の傾向に影響を与えていると思われる。

7-R6



- ・毎年、8割以上が肯定的な回答をしている。
- △昨年にと比べると、生徒と保護者ともに、多少、肯定的な回答が減少している。

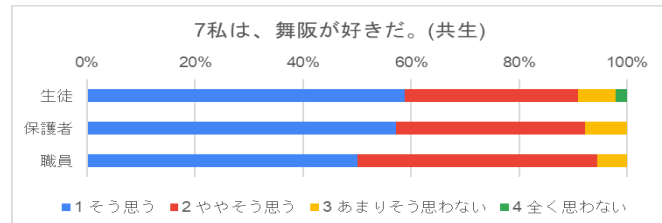
各学年の生徒の状況は以下の通り。



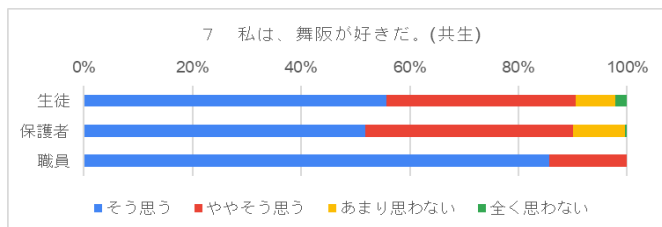
- ・3年生は、2年次の時と大きな変化はない。
- △2年生は、1年次で6割近くの生徒が「そう思う」、9割近くの生徒が肯定的な回答をしていた。

→職場体験や修学旅行など、舞阪から外に出た地域での体験活動を踏まえ、再度、自分たちの地域のよさや未来の舞阪について考えさせ、自分たちの手で地域をつくる礎としたい。

7-R5



7-R4



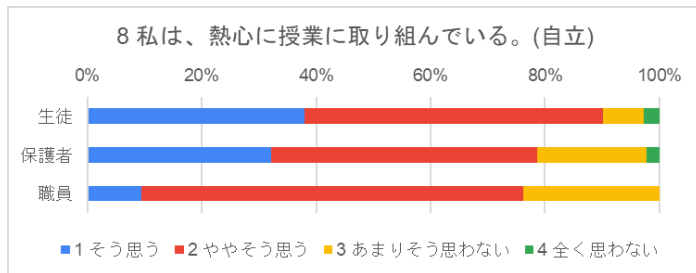
【改善方策】

- ① 「生き方教育」に関しては、本校の3年間で行っているさまざまな教育活動が、自己肯定感や自己有用感の高まりをもたらしていることが分かった。
そこで、これまでの取り組みを基に、総合的な学習の時間の全体計画と2、3年生の指導計画の見直しを行った。
 - ・2年生の探求課題を生き方学習から「自己理解」とし、将来を見通す前に自己の得意や興味等について考えさせたい。特に、立志の決意を立てる際には、キャリアパスポートを活用しながら、これまでの自身の成長を振り返らせたい。
 - ・3年生の探求課題を地域学習から「生き方学習」とし、社会の一員としての自分の姿や将来の夢の実現に向けて、中学卒業後の具体的な生き方について考えさせたい。
- ② 校内研修のテーマは、「未来に向かって主体的に学び続ける生徒の育成」を来年度も継続し、キャリア教育の4つの力のうち、「課題対応能力」の育成にも継続して取り組む。
さらに、基礎基本の定着に向けても、〈2 確かな学力〉と合わせて取り組むたい。
- ③ 「舞阪に学ぶ」では、今年度に引き続き、地域行事への積極的な参加の呼びかけを行っていききたい。また、中学校で行っている防災への取り組みに関して、より一層の地域との連携を図っていききたい。

(2) 確かな学力

【自己評価アンケートの結果と考察】

8-R6

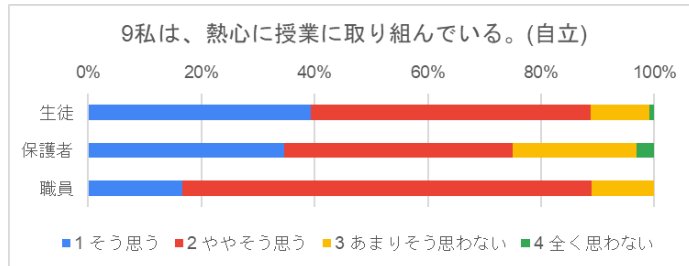


・生徒と保護者の肯定的な回答の割合は、ほぼ例年通りであった。

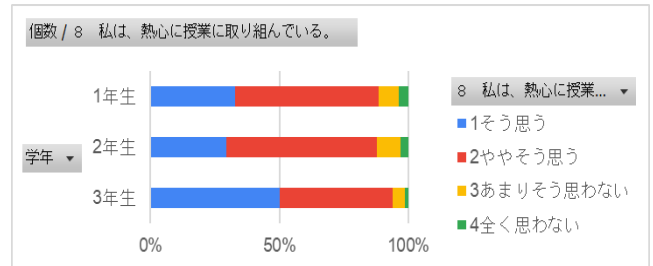
△生徒の「全く思わない」の割合が増加。

△職員の「そう思う」の割合が、ここ3年間で1番低い結果となった。

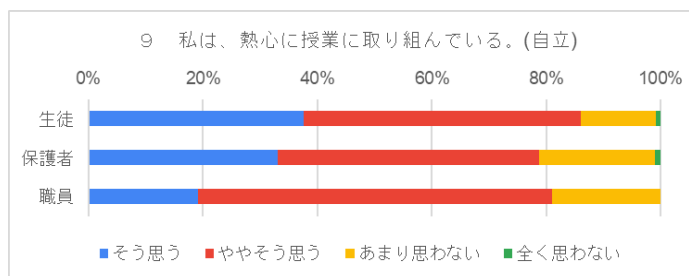
8-R5



各学年の生徒の状況は次の通りである。

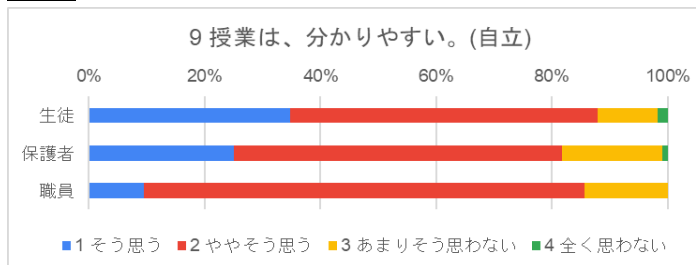


8-R4

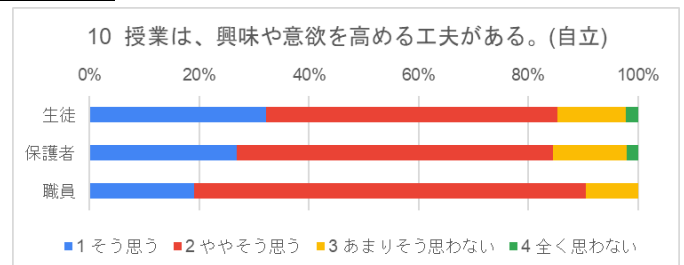


△昨年度に比べ、1、2年生の「そう思う」の割合が減り、「全く思わない」の割合が増加していた。

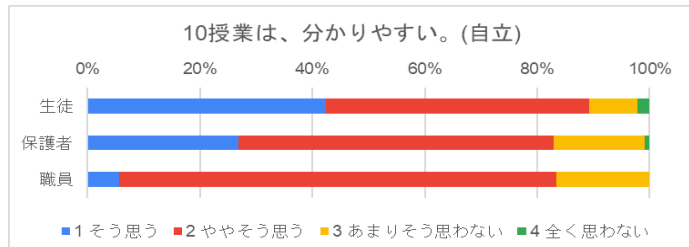
9-R6



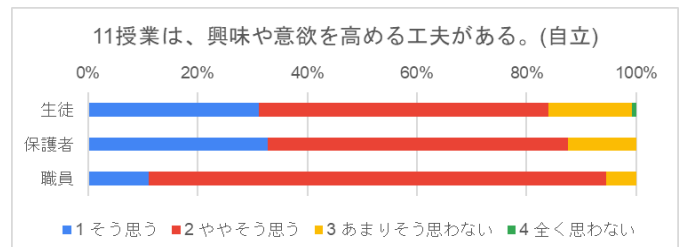
10-R6



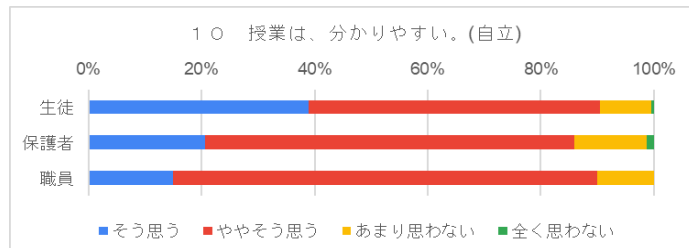
9-R5



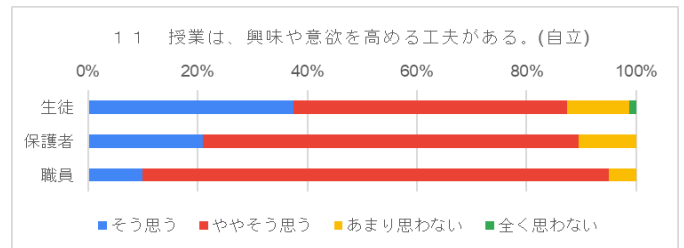
10-R5



9-R4



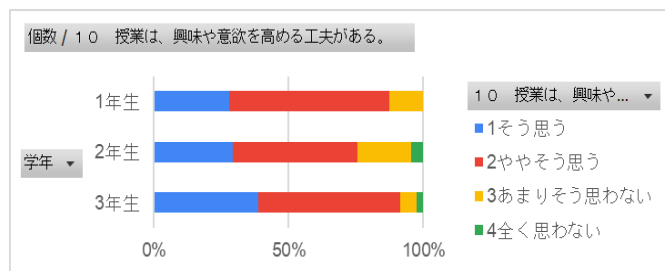
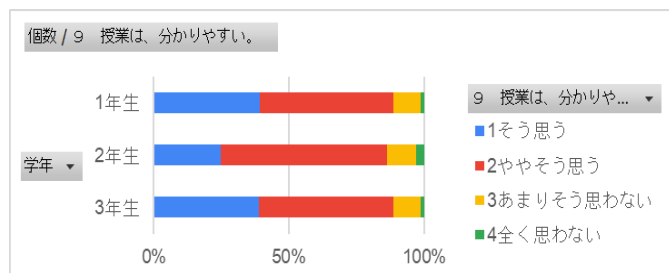
10-R4



・肯定的な回答の割合は、例年8割を超えている。

△職員は、「そう思う」の割合が昨年よりも増加しているが、生徒の「そう思う」と回答した割合は、昨年と同じか減少している。

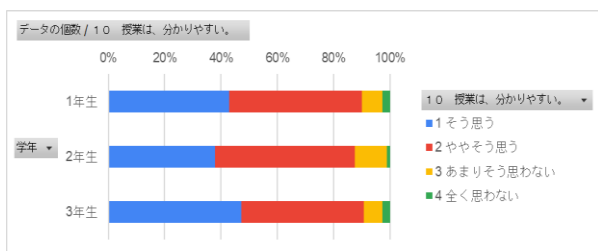
各学年の生徒の状況は、以下の通りである。



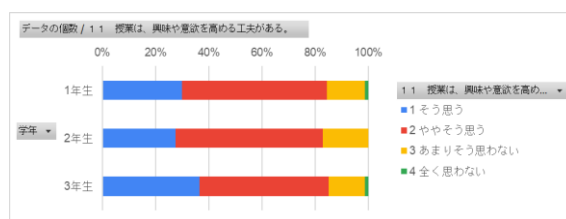
・3年生は、1年次から割合がほぼ変化なし。
△2年生は、1年次「そう思う」が4割を超えていた。肯定的な割合は、ほぼ同じ。

○3年生は、2年次よりも「そう思う」の割合が増加し、肯定的な回答も増加した。
△2年生は、1年次と比較すると、「そう思う」の割合はほぼ同じだが、肯定的な回答全体は減少した。

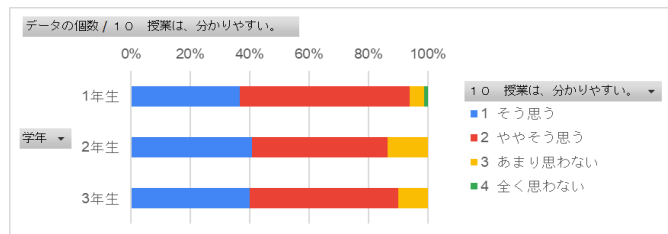
9-R5



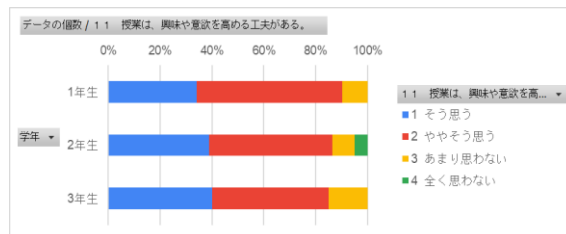
10-R5



9-R4



10-R4



職員が、「生徒は、熱心に授業に取り組んでいる」の質問に対して肯定的に回答している割合が減少していることと、生徒が、「授業が分かりやすい」「授業は興味や意欲を高める工夫がある」と感じている割合が減少していることとは、関連性があると考える。

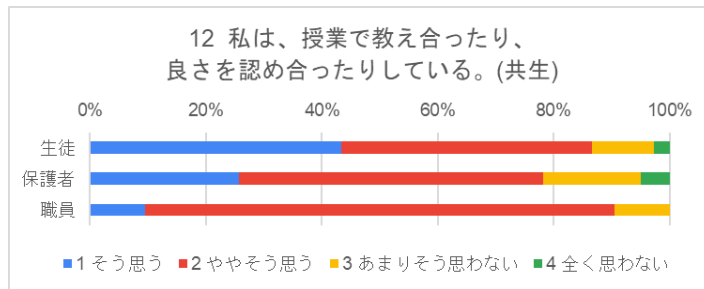
→職員は、昨年度よりも授業を分かりやすいものにしていたり、興味や意欲を高める工夫をしていたりしているので、今後も授業改善を継続していきたい。

→特に、中学校段階は心身の発達上の変化が著しく、生徒の能力・適性、興味・関心等の多様化が一層進展するときである。そのため、学年による生徒の発達の段階の差、個人差も目立つ時期であり、自我意識が高まるとともに個性が多様化してくる時期でもある。だからこそ、目の前の生徒たちの状況に合った工夫、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが求められている。校内研修を軸に、学校全体で進めていく必要があると考える。

(一部引用:学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料 (令和3年3月版))

「協働的な学び」につながる質問に対しての回答は、以下の通りである。

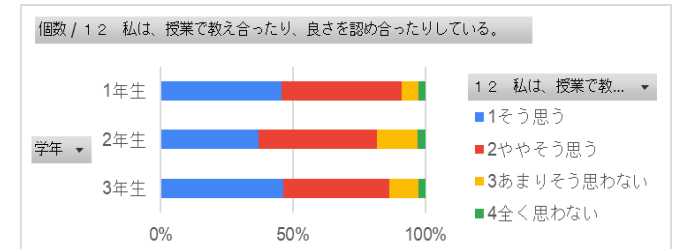
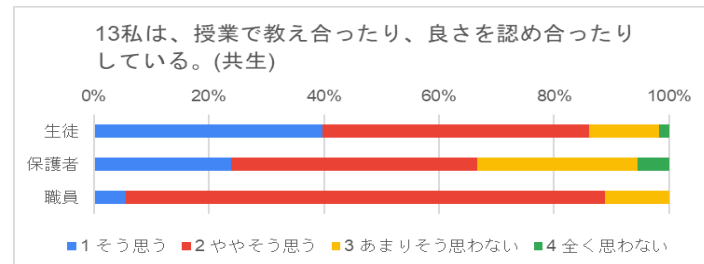
12-R6



○生徒、保護者、職員ともに、「そう思う」や肯定的な回答が、昨年度よりも増加した。
→生徒個々の特性や考えが、互いのよりよい学びにつながるものになるとよい。

各学年の生徒の状況は以下の通り。

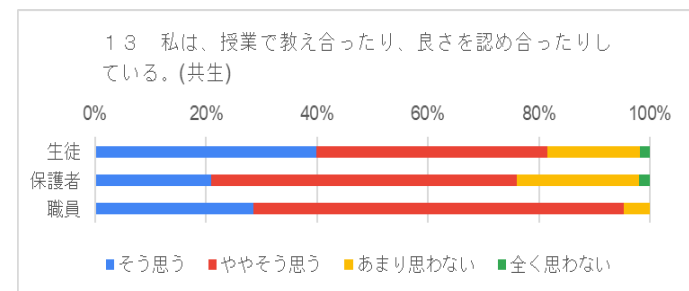
12-R5



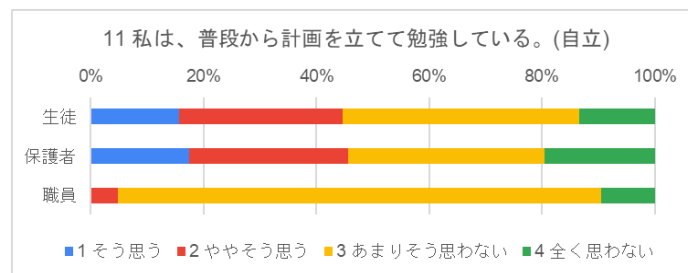
○3年生は、2年次よりも「そう思う」の割合が増加し、さらに否定的な回答の割合も減少した。

△2年生は、多少肯定的な回答が減少している。しかし、現3年生も1年次では、「そう思う」の割合が5割に迫る状況であったが、2年次で4割に満たなかったことを考えると、成長過程での特徴、教科の学習内容などとの関連もあると思われる。

12-R4



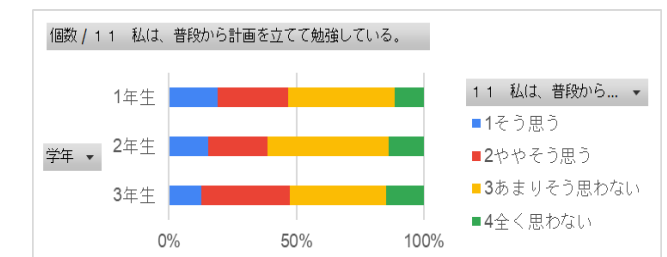
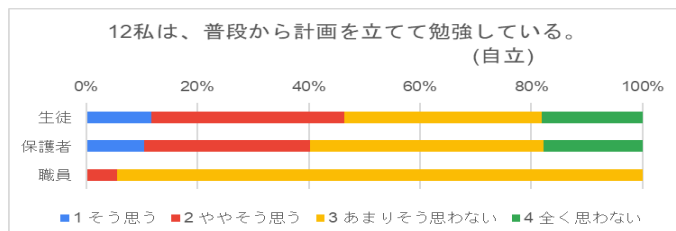
11-R6



○生徒、保護者の「そう思う」と回答した割合が昨年度よりも増加した。

各学年の生徒の状況は以下の通り。

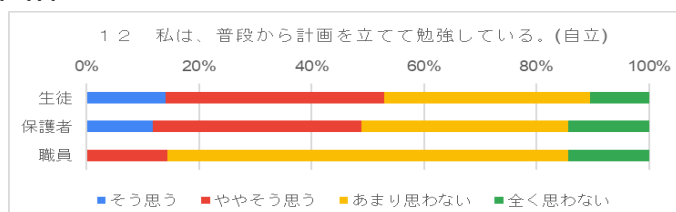
11-R5



○2年生は1年次よりも「そう思う」が増加。
△しかし、「ややそう思う」が減少し、「あまりそう思わない」が増加した。

○3年生は2年次よりも「ややそう思う」が増加し、「全く思わない」が減少した。

11-R4



No. 11 の「計画を立てて勉強する」ことに関しては、本年度、週一でのタブレット持ち帰り学習やテスト勉強計画表の工夫、各教科の課題の出し方や評価の工夫など、生徒への家庭学習に向かうきっかけづくりに取り組んだ。

→生徒や保護者の「そう思う」と回答した割合は少し増加したが、否定的な回答は例年通り半数以上の状態が続いている。

→生徒自身が家庭で復習や予習をすることで、授業の内容がより理解でき、質問 8 の「熱心な取り組み」や、質問 9 の「分かりやすい」につながるとされる。

→そのため、「計画を立てて勉強する」ことが具体的にどのような状況であるのかを生徒や保護者ともに確認したり、勉強することが自分(自分の子ども)の将来・未来の夢や生き方とどのようにかかわるのかを考えさせたりするなどして、肯定的な回答が 5 割を超える状況を目指したい。

【改善方策】

① 定期テスト 1 週間前から「スタディウィーク」を設定し、生徒が主体的に学びに向かうような環境づくりを行う。

例・学習図書委員会では、委員長の呼びかけや予想問題の作成などを行う。

- ・朝読書の時間を朝学習の時間とする。
- ・放課後、自学ができる教室を用意する。
- ・昼休み等に、教科担任がテスト範囲の補充プリントを用意したり、その問題の解説をしたりする。
- ・テスト勉強計画表は、to do リスト形式と日ごとの形式を用意し、自分の学習スタイルに合ったものを選択できるようにする。

② タブレットを用いた家庭学習の見直しを行う。

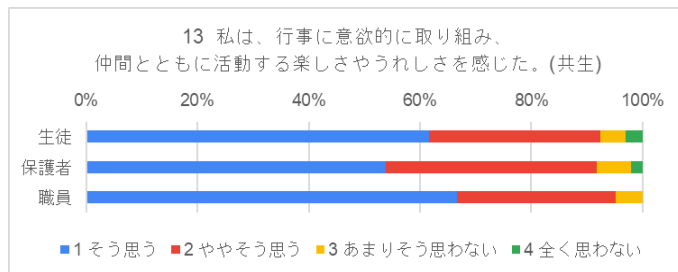
- ・ 1 週間に 1 回のドリルパークを使った全校一斉の課題提出から、教科ごとにタブレットを使って積極的に課題を出す。(目標は各教科学期に 1 回以上)

また、その課題に対する小テスト等を実施して、基礎学力の定着を図りたい。

(3) 元気な学校

【自己評価アンケートの結果と考察】

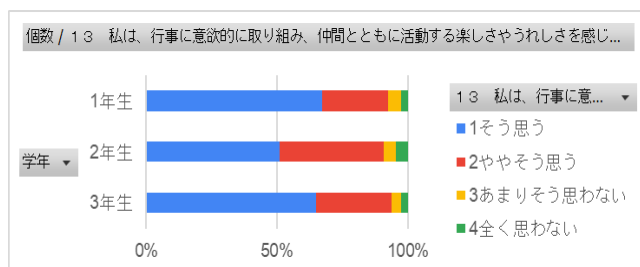
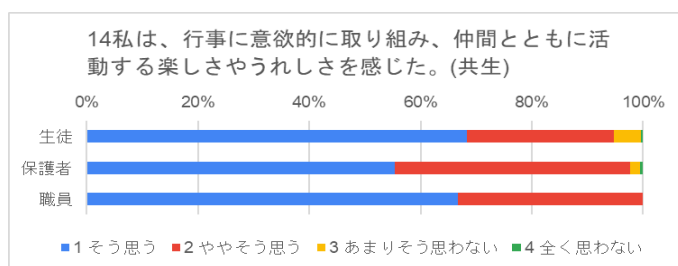
13-R6



・ 肯定的な回答が、毎年9割を超えている。
△ただ、生徒と保護者において、「そう思う」と回答した割合は、昨年度に比べ減少した。
△そして、「全く思わない」の割合が増加した。

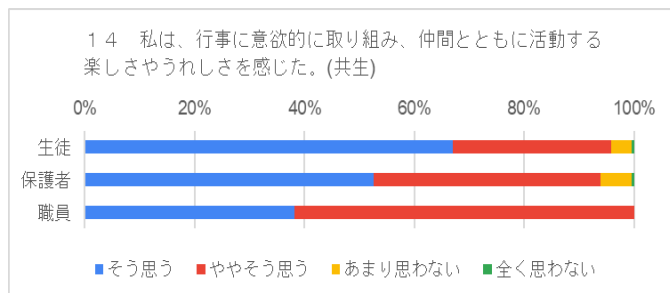
各学年の生徒の状況は以下の通り。

13-R5



△2年生、3年生ともに、昨年度に比べるとわずかではあるが、否定的な回答が増加。

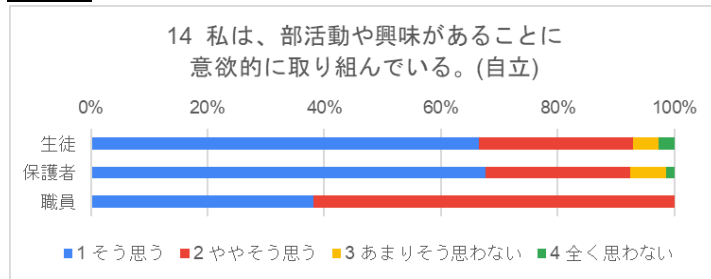
13-R4



→昨年度からコロナが第5類に移行し、他者とかかわる活動が制限なく実施された。

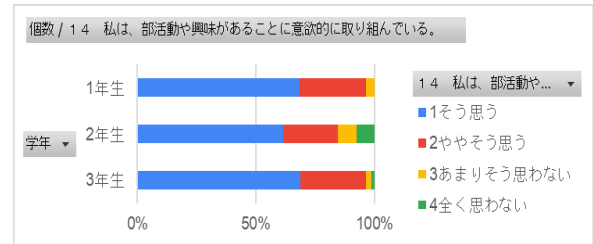
→これまで、他者とかかわる活動の経験が少なかったと思われる生徒たちが、他者とかかわり方に悩んだり、不適応を起こしたりしていると考えられる。

14-R6



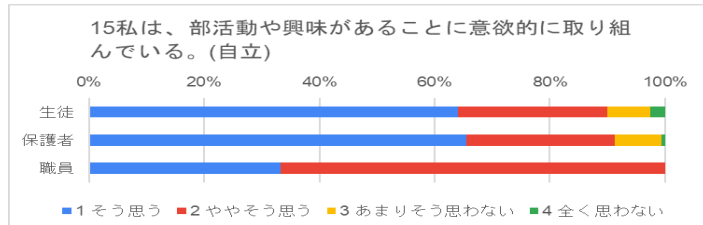
- ・昨年度と大きな変化は見られない。

各学年の生徒の状況は以下の通り。

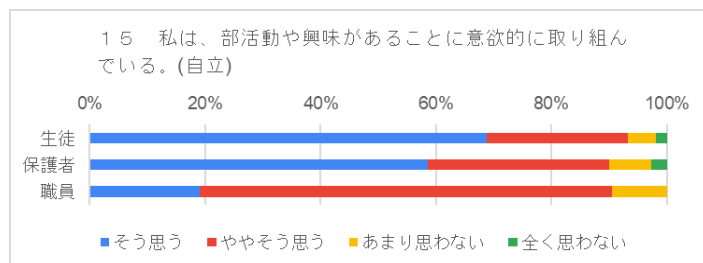


- ・2年生は、昨年度と大きな変化はない。
- 3年生は2年時に比べると、肯定的な回答が大幅に増えた。

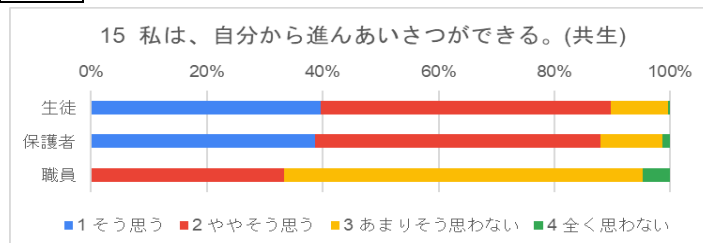
14-R5



14-R4

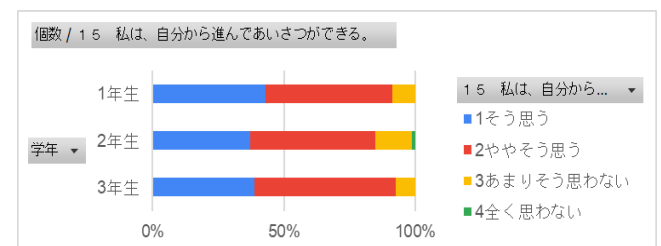


15-R6

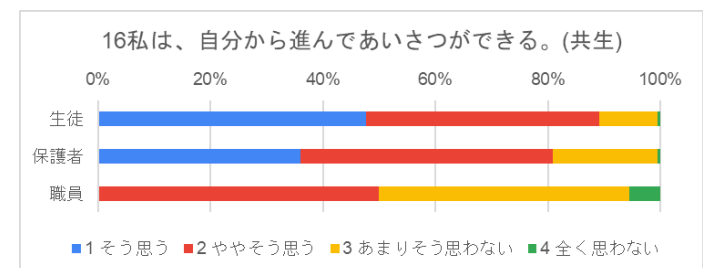


- 保護者の肯定的な回答が増加した。
- △生徒の「そう思う」は昨年度より減少した。
- △職員の肯定的な回答が減少した。

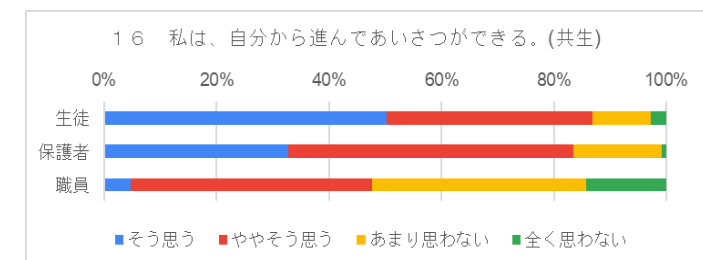
各学年の生徒の状況は以下の通り。



15-R5



15-R4



- ・2年生の「そう思う」は1年次よりも減少しているが、肯定的な回答の割合は、大きな変化は見られない。
- ・3年生も、1年次からほぼ同ような割合であった。

→昨年度の3年生が「そう思う」と回答した割合が高かったので、昨年度よりも「そう思う」の割合が減少したと思われる。

→各学年の特徴が結果に影響をしていると思われる。今後も、声かけと奨励を継続していきたい。

【改善方策】

- ・〈3 元気な学校〉にかかわる取り組みは、今年度の活動を継続していく。

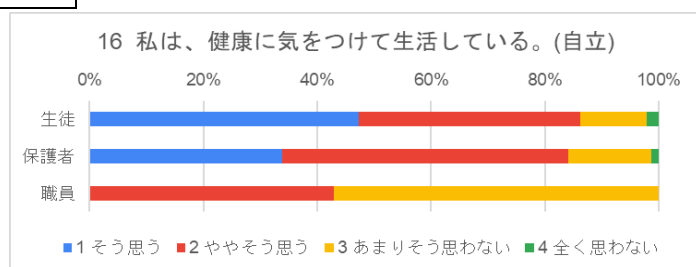
ただ来年度は、暑さを回避する点から、二大行事について、これまでの時期から変更をし、10月初めに「潮鳴祭」、10月末に「体育祭」を行う。

そのため、行事の計画・準備・実施の流れと生徒の育成に関する効果について、よく吟味し、令和8年度以降の教育課程作成につなげていきたい。

(4) いのちの教育:いじめ防止基本方針に対する取組について

【自己評価アンケートの結果と考察】

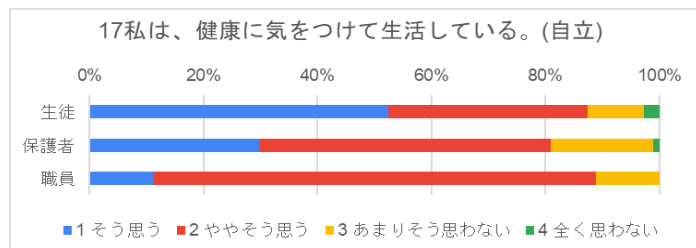
16-R6



- ・生徒の肯定的な回答は、昨年度とほぼ同じ。
- 保護者の肯定的な回答は増加した。
- △職員の回答は、肯定的な回答が半減した。

→今年度も、さまざまな感染症での欠席は見られたが、学校全体での大きな流行はしていない。

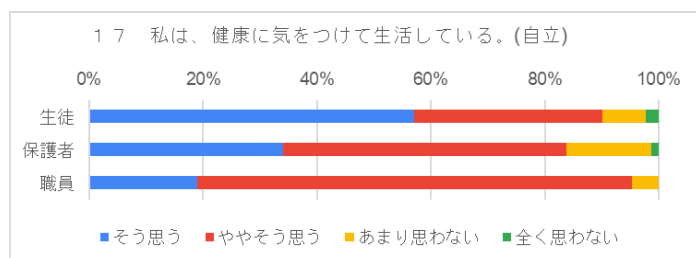
16-R5



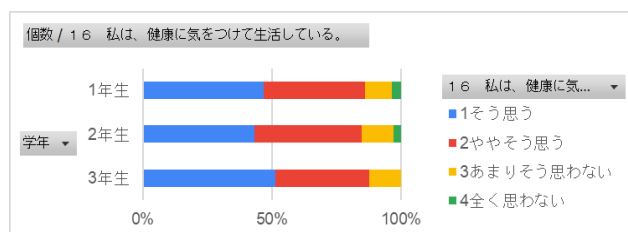
→保健室への来室は、生活リズムの乱れや心理的な不安定さによる体調不良を訴える生徒、けがをした生徒が多かった。

→内面的な部分での支援が必要であると思われる。

16-R4



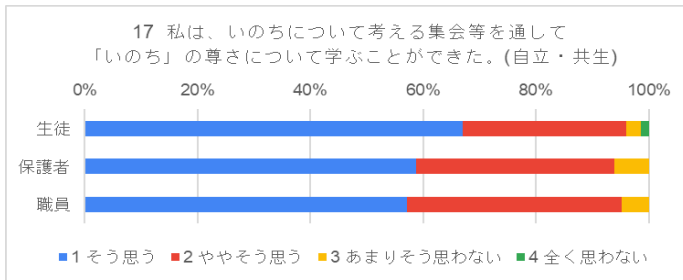
各学年の生徒の回答は以下の通り。



- ・2、3年生は昨年度とほぼ同じ結果。

17-R6

※いのちについて考える集会等とは、心の教育講座や防災訓練。

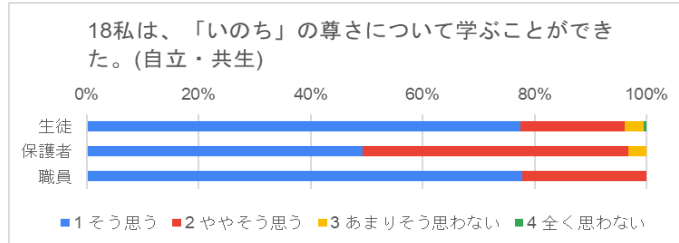


・例年どおり 9 割以上が肯定的な回答である。

○保護者の「そう思う」が増加した。

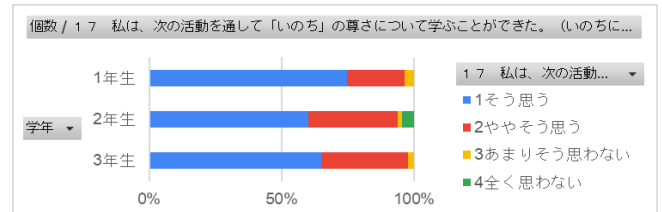
→生徒が学びを家庭で話題にしたり、学校が発信をした成果と考える。

17-R5

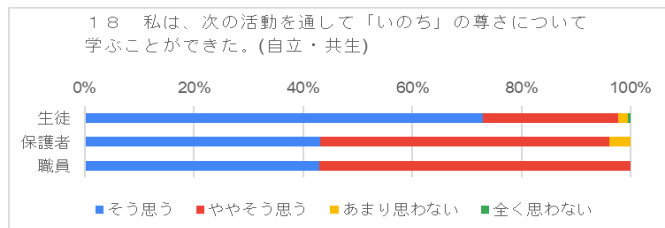


△生徒と職員で、「そう思う」と回答した割合がかなり減少した。

各学年の生徒の状況は以下の通り。

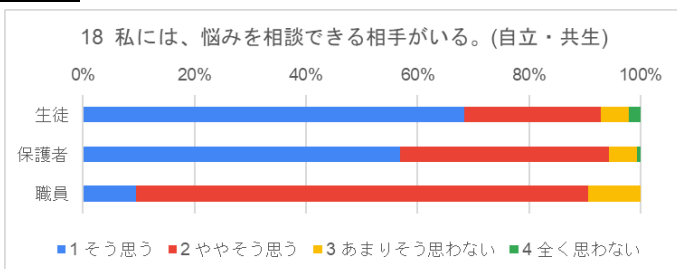


17-R4



→昨年度の 3 年生の「そう思う」の割合が高かったことと、現 2 年生が 1 年次よりも「そう思う」の割合が減少したことが要因と思われる。

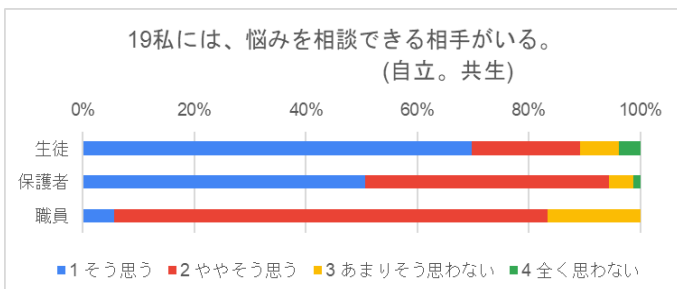
18-R6



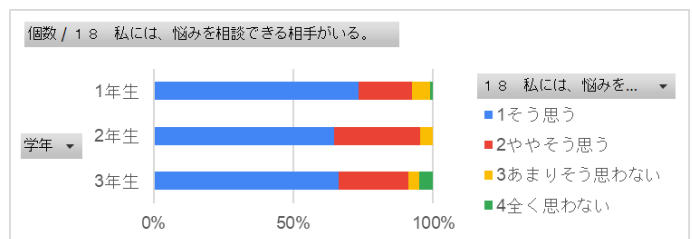
○生徒と職員の肯定的な回答、保護者の「そう思う」と回答した割合が、昨年度より増加。

→生活アンケートや三者面談など、生徒に寄り添った生徒指導を継続してきたり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門機関と連携をしてきたりしたことが結果につながったと思われる。

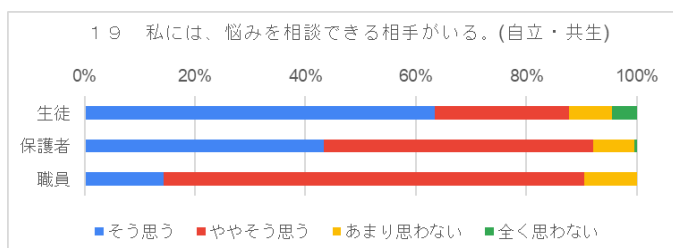
18-R5



各学年の生徒の様子は以下の通り。

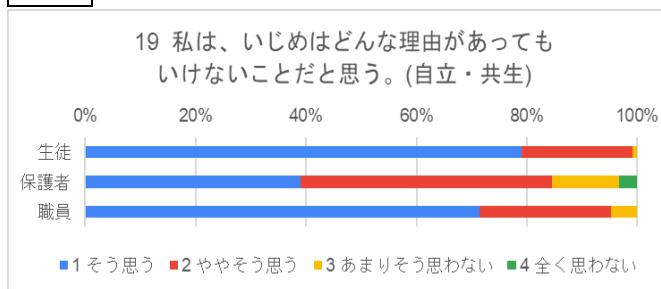


18-R4



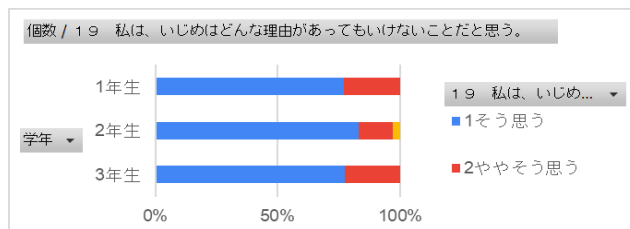
・2 年生が 1 年次よりも「そう思う」と回答する生徒の割合が減少しているが、これは現 3 年生も同じような傾向が見られたため、子どもの成長段階の特徴と思われる。

※保護者と職員は、いじめを許さない学校づくりをしているかについての質問。

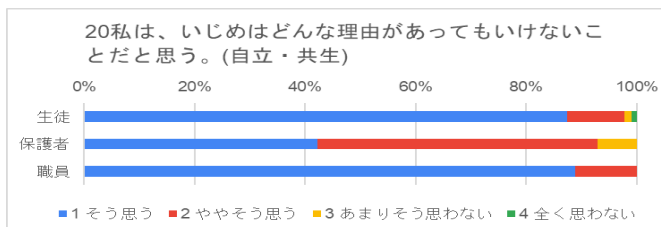


○生徒は、「そう思う」の回答が増加した。

各学年の状況は以下の通り。

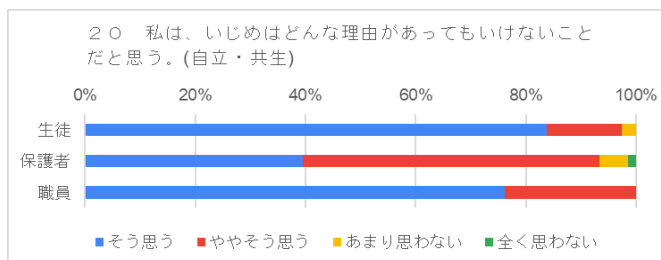


19-R5



△保護者は、肯定的な回答が減少し、「全く
思わない」という回答の割合が増加した。
△職員「の「そう思う」の割合が減少した。

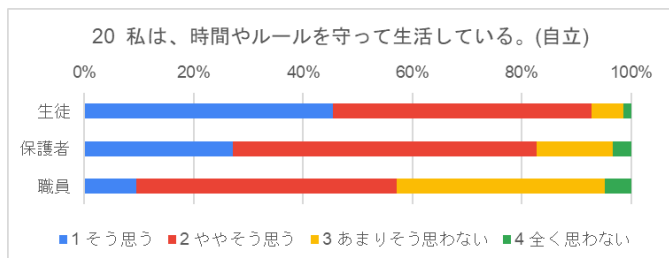
19-R4



→道徳の授業の公開や学校の取り組みの発信
などを行ってきたが、前年度を上回る成果
にはつながらなかった。

→子ども1人ひとり、誰もが安心して学校生活を送ることができていれば、「そう思う」の割合が増加すると思われる。

20-R6

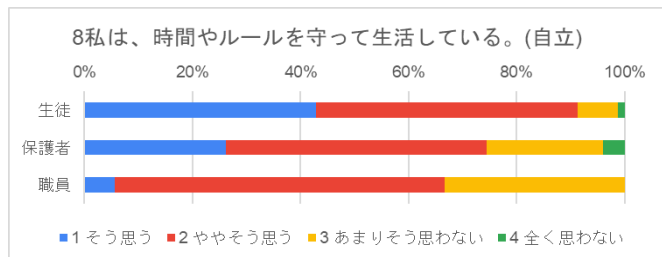


- ・生徒は、昨年度とほぼ同じか「そう思う」の割合が少し増加した。

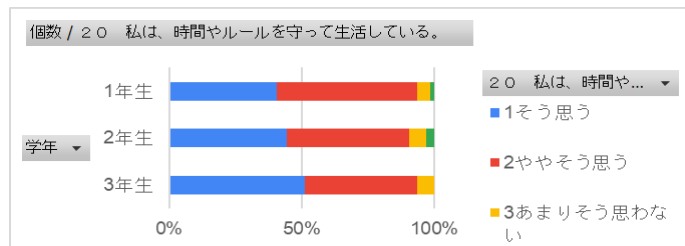
○保護者は、「ややそう思う」の割合が増加した。

△職員は、ここ３年間で肯定的な回答の割合が、
１番低くなった。

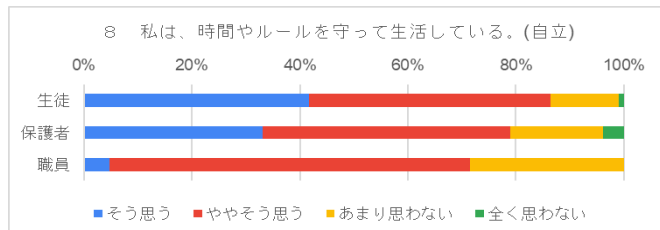
20-R5



各学年の生徒の状況は以下の通り。



20-R4



- ・ 学年があがるにつれ、「そう思う」の割合が高くなる傾向は、ここ3年間、全く同じ状況が見られている。

→しかし、職員の肯定的な回答の減少もあるので、生徒の自治的活動と合わせて、安心・安全な学校づくりを今後も継続していく必要がある。

〈令和6年度いじめ防止基本方針に対する取組〉

年間指導計画に沿って実施した。主な取組は、以下の通り。

- ・ 浜松市の方針を受けて、昨年度末に作成した舞阪中学校版「いじめ防止基本方針」を、年度初めに新しい教職員で再確認を行った。
- ・ 校内での生徒理解研修の他、発達支援教育にかかわる事例研修を実施した。
また、舞阪小学校との小中合同研修会において、児童・生徒の情報共有を行った他、精神保健福祉センターの子どもメンタルヘルスサポーターを招聘し、不登校をテーマに研修を実施した。
- ・ 生徒の様子をつかんだり、生徒・保護者からの相談を受けたりする機会として、一昨年から継続して、以下のことを実施した。
 - 生徒への生活アンケート 年3回
(市教委と連携をしてタブレット持ち帰りによるアンケートを実施
→アンケートに回答すると、即座に集計され、迅速な対応につながっている。)
 - 三者面談 1学期末と2学期末 ○希望制面談 年度初めと年度終わり
 - スクールカウンセラー等の活用と連携
- ・ 今年度も、6月を「いのちについて考える月間」と位置づけ、以下のことに取り組んだ。
 - 校長講話 ○命にかかわる教材による道德の授業
 - 「いのちを考える集会」と「私のハート」(生徒会本部・保健体育委員会主催)

【改善方策】

今年度見直してきたことを、来年度も継続していきたい。

① 防災訓練や防災学習

○予想される災害を想定した避難訓練を実施する。

例:生徒に予告しない訓練、授業中の訓練、余震を想定した訓練など

○年度当初に「職員の防災研修」を実施する。

・ 生徒の避難訓練を実施する前に、避難の仕方や救命胴衣の保管場所、防災倉庫等の確認を行う。

○「中学生が地域を支える人材である」という自覚をもたせ、自治会や舞阪支所、小学校と連携した防災教育を模索する。 例:地域と行う「舞中防災の日」

② 授業参観会で道德の授業を公開する。

・ 「いのち」を題材とした授業だけでなく、人間関係形成、エンカウンターなどを取り入れた授業も考えていきたい。

③ 「いじめ防止基本方針」の年間計画の見直しと再確認をするとともに、校内外まなびの教室支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等、校内外の専門職の方との連携を図り、生徒に寄り添った指導体制を継続していきたい。

5 学校関係者評価

2月18日（火）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告した。委員からは以下のような意見があった。

(1) 自分や舞阪への誇り

- ・地域防災訓練に、中学生がたくさん参加してくれたことがよかった。
炊き出しの手伝いも、一生懸命やってくれた。ずっと継続していかなければならない。
- ・「舞阪が好きだ」と多くの子どもたちが思ってくれていることはよい。
- ・好きだと言ってくれているが、将来、この地域がどのようになっていくのかは分からない。
「誇りを持って地元で生きていくためには、どのようにしていくべきか」を、地域の住民たちが考え、変わっていかないといけないのではないか。
- ・舞阪地域の産業や観光業については、後継者問題が深刻である。また、祭典をはじめ、舞阪には独特な文化がある。地域を感じる体験を、子どもの時から大切にしていきたい。
- ・2年生の教室前に「立志の決意」が書かれた色紙・書が掲示してあったが、生徒の思いに対して学校はどのようにフォローをしているのか。
→去年は、「生き方マップ」を作成するなど、3年生の学習につなげた。
また学年末には、キャリアパスポートを活用して1年の振り返りをするが、その際、生徒の振り返りに対する担任からの助言を記入し、フィードバックしている。

(2) 確かな学力

- ・話し合い活動を中学校で行っているため、子どもがよく考えて発言するようになった。
自分の子どもが高校生になったが、授業の中で討論ができている。
- ・話し合い活動で、相手の気持ちをどのくらい考えて発言しているのかが気になる。
- ・タブレットを用いた学習に対して、来年度に向けた改善がされているところがよい。

(4) いのちの教育：いじめ防止基本方針に対する取組について

- ・学校評価アンケート項目19「いじめは、どんな理由があっても行けないことだと思う。」に対する生徒の結果がよい。
- ・いじめのつもりがなかったとしても、相手がいじめととらえることもあるだろうし、同じ行為でも傷つく子と傷つかない子がいるだろう。いじめは、難しく、複雑な問題に感じる。
- ・学校は、隠蔽せず、対応をしてほしい。
- ・不登校も多くなっていると思うが、何かあれば、協議会で話題にしてほしい。
- ・いじめや不登校の要因は、十人十色であろう。子どもたちのさまざまな状況に対して、校内外にいろいろな対応のできる場所が設けられているが、なかなか解決しないということは、本当に難しい問題なのだと思う。

6 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

(1) 自分や舞阪への誇り

- ・ 3年の総合的な学習の時間をはじめ、各教科等で舞阪の産業や文化の継承に関連する内容を学習する際は、生徒たちに地域の一員としてできることを考えさせる。

(2) 確かな学力

- ・ 教え合ったりよさを認め合ったりする時に、他者を思いやった話し合いや教え合いの進め方、発言の仕方等について、教師から生徒に確認させるようにする。

(4) いのちの教育:いじめ防止基本方針に対する取組について

- ・ 「4 自己評価結果と考察」に記載した「改善方策」③で示したことを、全職員で再確認した。
- ・ 必要に応じて、学校運営協議会で学校や生徒の現状を伝え、助言をもとにより安心・安全な学校づくりに活かしていくようにしたい。

以上の改善方策に基づき、次年度、本校の教育活動が充実するように努めていきたい。